

嫁ぎ先で目覚めた親への感謝

小山教会 須田佳央莉さん

須田佳央莉さんには、実父との確執を抱えていた過去がある。両親のいさかいが絶えない、冷たい家庭環境。厳しい父親の顔を窺いながらの生活…。摂食障害を引き起こすほど心に傷を抱えていたのだった。平成15年に結婚。夫の実家で義父母との生活が始まると、そこには自分が育ったのとは違う、温かな「家庭」があった。なかでも義母とのふれあいが、頑な佳央莉さんの心を溶きほぐしていき、実父に対する思いと向きあうようになった。すると、親子という尊い縁をいただき、この世に生を受けたことに、改めて気づかされた。そして、ただ厳しいだけではなく愛情をもって育てられていたこと。家族の生活を一人で背負っていた実父の苦勞や実母の切なさが胸に押し寄せ、まるで自分のことのように感じられた。嫁ぎ先で知った家族の愛情が、じつは最も近くにあったことに気づかされたのだった。



先祖に感謝できる幸せ

私たちはみな、両親を縁としてこの世に生まれてきました。そしてその親にも、そのまた親にも、みなそれぞれ両親がいます。見方を変えると、数限りない先祖からの命の「たすき」がつながれ、いま私たちは連綿れんめんとつながる命の最先端を走っているのです。そうした自分の命の尊とうとさをかみしめ、生かされているいまに感謝する——それが先祖供養の基本的な意味あいだと思います。「先祖のだけ一人が欠けても私は存在しない」という命の奇跡を知る契機であればこそ、先祖がほんとうに喜んでくださる供養となるのです。ところが、かつての日本では、子孫のなかの決められた人だけに先祖を祭る供養まつが許されていたさうです。つまり、だれにも遠慮せず先祖を供養できるのは、それ自体がとても有り難いことなのです。また世間には、先祖供養と聞いてもびんとこない人が、まだたくさんいます。あるいは、先祖供養という言葉に恐ろしいな印象をもつ人がいるかもしれません。そうしたなかで、先祖供養のほんとうの意味と大切さを知り、しかも実践できる私たちは、ほんとうに幸せだと思います。

立正佼成会